



今年の五月九日に米ハワイ・マウナロア観測所で二酸化炭素濃度が0.04%を超えたと報告されました。地球大気では窒

素、酸素、アルゴンに次いで四番目に多い成分で、温室効果ガスとして知られていますが、二酸化炭素の濃度は年々少しずつ上がっています。直線的ではなく波形になっています。これは夏は植物が繁茂して吸収するため下がり、冬に高くなるからです。

マウナロアはハワイ島にある標高四一六九メートルのなだらかな火山です。ここで二酸化炭素を測定して地球大気の温暖化の指標にしようと考えたのは当時大学院生だった故C・D・キーリングさんの卓見ですが、それを実現させた、周囲の柔軟性も素晴らしいと思います。当初は昼夜の濃度変動や、季節変化も分ならず苦労したと、三十年前

二酸化炭素

の訪問時に所員から説明されました。

山頂近くの小さな観測所として出発しましたが、一九五六年に三三九七メートルの現場の場所に移設され五八年から観測が始まりました。世界で最初に高精度な二酸化炭素測定を開始した国際的な基準観測所となっています。

二〇〇九年に大量の蓄電池を担ぎ上げ、富士山頂で二酸化炭素の測定をしているのは国立環境研・向井人史地球環境研究センター長のグループです。電源が限られた条件でグローバルな変動が分かる精度の観測に成功し、アジア大陸独特の特徴もみられます。マウナロアより半世紀遅れました



が、富士山でも今後よいデータが得られ続けることを期待します。

(土器屋 由紀子＝富士山

観測所を活用する会理事)